

## 記念講演『派遣村・内閣府参与から見えてきたこと』

反貧困ネットワーク事務局長 湯浅 誠 氏

### 要点

- ・ ユニセフの調査：いわゆる先進資本主義25カ国の15歳の子どもの気持ち。  
日本の子どもの際立った特徴 さびしいと感じる 30%（他国はほぼ10%以下）  
居場所がないと感じる 18%
- ・ 原因は何か。（資本主義、市場原理、経済のグローバル化などは日本だけではない。）
- ・ 長時間労働、単身赴任、低賃金非正規雇用、ダブルワーク、競争原理の学校運営・・・
- ・ 将来自分は、未熟練労働に就くと思っている子どもが、日本は50%。ワースト1。
- ・ 彼らが3年後、5年後、7年後には労働者に。
- ・ 1人前の労働者を育てる条件を整えず、20歳でいきなり「自己責任」と言えるか。
- ・ 「離家（家を出る）」できない若者が、間もなく40代に。少子化にも拍車。
- ・ 将来に「つけ」を回しているのは、国債だけではない。
- ・ このこと（＝教育の貧困）の方が、より深刻な「つけ」ともいえる。
- ・ 「経済成長で貧困はなくなる」という、のは主従関係が逆転している。
- ・ 働くべき人が3万人自殺し続ける経済的損失は22兆円。
- ・ 健康格差社会。健康被害による医療扶助費増大という社会的コスト論も必要。
- ・ 貧困、格差をなくし、ひとり一人の価値を引き出すことが、経済成長につながる。
- ・ 貧困の再生産、3人家庭で年収200万  
授業料滞納→中退→ワーキングプア→低所得夫婦→子どもの貧困→授業料滞納・・・
- ・ ‘80年代までは、国（護送船団方式）、大企業、男性正社員、という3つの傘。
- ・ 次々とその傘が閉じられ、雨にぬれる人が増えた。（相対的貧困率15.7%）
- ・ 他国と比べた日本の貧困の特徴は、80%の世帯が、働いていること。
- ・ 「真面目に働いていないから貧困」というのは、とりわけ日本には当てはまらない。
- ・ 「甘えるやつに金を使ってもむだ」という偏見。
- ・ 母子家庭への偏見なども、いまだ根強い。
  
- ・ システムを問わねばならない。
- ・ 国際比較：日本の所得再分配機能は、あのアメリカよりも弱い（世界最悪）  
低位20%の所得の人たちが、所得のシェアよりも高い税・社会保険料をシェア  
高位20%の所得の人たちの、税、保険料負担は、国際的にダントツで低い。
  
- ・ パーソナルサポーター構想（この部分に詳しく触れる時間なし。資料あり。）

## 福島みずほ さん とのトークセッションから

- ・ 障がい者制度改革推進会議に、当事者である障がい者が参画できたのは、大きな成果。
- ・ 障がい者運動の底力だと感じる。
- ・ 参与に復帰するが、いわば「一本釣り」。
- ・ 現場を知る者の参画がビルトインされたシステムが必要。
- ・ 官僚機構の硬直性を実感。しかし、彼らのプロとしての能力は活用すべき。
- ・ おかしいと感じたら、まず行動。そして考え、深みにはまっていく（笑い）。
- ・ 「どんな意味が？」「これで社会はよくなる？」「自己満足か？」と悩むより、まず行動。